

本構想の刊行にあたっての 激励のことば

有識者(五十音順)

小川光 (東京大学大学院 教授)

戸田 祐嗣(名古屋大学大学院 教授)

秀島 栄三(名古屋工業大学大学院 教授)

中部圏の未来に向けた 提案力と行動への期待

東京大学大学院 教授 小川光

国土計画のあり方は、かつての国主導から、国と地方が連携しつつ、地方が地域の実情を反映した計画を国に提案する形へと大きく変化しました。その変化からちょうど20年を迎える節目の年に、建設コンサルタンツ協会中部支部が本構想を発表したことは、この地域の建設コンサルタント各社が中部地域への情熱とインフラ整備を支える戦略・専門性を有していること、さらには中央回廊の中心に位置する中部圏の未来への可能性を示していると言えます。

本構想の内容は、無味乾燥な総花的提案とは一線を画しています。景観とデザインの重視、既存ストックの高付加価値化とリノベーション、シビックプライド(地域住民の誇り)の尊重など、従来の将来構想や費用対効果を重視する計画では見過ごされがちな大事な視点が随所に盛り込まれています。これにより、中部圏の実情や住民の地元愛と誇りをしっかりと踏まえた、中部ならではの特色ある構想が描かれています。

地方が独自の課題解決策を提案し、国がそれを支援する新しい時代においては、地域ごとの課題を的確に把握し、実情に即した計画を地方自らが立案し、国だけでなく社会全体に向けて発信する役割が求められています。その役割を果たせない地域には、明るい未来は望めません。本構想は、中部圏の建設コンサルタントという民間の立場から、インフラ整備を担う視点を通じて、中部圏の未来を切り拓く一助となるものです。

「学習を伴わない行動は危険であり、行動を伴わない学習は無益である」という格言があります。建設コンサルタンツ協会中部支部には、本構想を礎に、「真の豊かさを実現できる」中部圏に向けて、次なる行動を起こすことを期待しています。

本構想に感ずる中部圏建設 コンサルタント技術者の矜持

名古屋大学大学院 教授 戸田祐嗣

船を造りたいのなら、男どもを森に集めたり、
仕事を割り振って命令したりする必要は無い。
代わりに、彼らに、
広大で無限な海への憧れを説けばいい。

本構想を拝読後、私の頭に思い浮かんだのはこのサン・テグジュペリの格言である。

本構想は中部圏の建設コンサルタントの技術者がその専門性に根差した英知を集結し、2050年を見据えた中部圏のインフラ整備構想を提示したものである。地域・国土のデザイナーである建設コンサルタント技術者は、航海の世界に例えるならば、船の設計や航路計画などの専門技術者といつてよいであろう。その技術者集団が取りまとめた本構想では、中部圏、名古屋圏、地域生活圏の3つの圏域の将来構想を記述したSection3~5のそれぞれの冒頭において、3つの圏域の将来像が、分かりやすいイラストと2050年時点の現在進行形の文章で生き活きと描かれている。「何をしなくてはいけないか」を滔々と説明するのではなく、「どういうワクワクとした未来に向かっていくのか」といったビジョンがまずは語られるのである。

本構想を策定した中部圏の建設コンサルタントの技術者は、本インフラ整備構想実現に向けた取り組みの中心で活躍される方たちであることは間違いない。しかし、中部圏の未来は、中部圏に関わるあらゆる皆様のものであり、そういった周りの方たちを巻き込み、協働していくことで、本書に描かれたような将来像が、構想から実現へと変わっていくのであろう。様々な価値観をもつ多様な主体を本構想に巻き込み、「真の豊かさ」を実感できる中部圏を作り上げていく、そのためにまずは皆に伝わる中部圏のワクワクする将来像を明確に提示する、このことに中部圏の建設コンサルタント技術者が本構想の策定にかけた熱意と深遠な志を感じず。

未来をつくる建設コンサルタント

名古屋工業大学大学院 教授 秀島栄三

中部圏には豊かさがある。とはいえ人手不足、物価高騰、能登半島の被災など先行きが見えないこともとても多い。豊かさを活かし、諸問題をどう乗り越えていくか。こういうときこそ未来を設計し、計画をたてることが大事になる。過去のトレンドは当てはまらない。絵空事では許されない。まさに設計や計画の質が問われる時代である。公共計画の多くは建設コンサルタントが原案を作っている。その段階で計画の質が大きく決まるとすると建設コンサルタントの責務は大きい。未来をどう構想するのか、納得される構想とはどういうものか。時代とともに変化する面もある。このような場面において改めて「文化」を理解することが重要と考える。文化は、社会が経験や知見を積み上げて形成される一方で新しいものを生み出す力を持っている。積み上げられ、残ったものにはそれなりに道理がある。だから新しいものにも説得力がある。建設コンサルタントはこれまでに多くのハードのインフラを計画し、設計してきた。今では公共施設マネジメントのようなソフトのインフラや官民連携の枠組みなどでサービスの開発も手がけるようになってきている。ハードに伴うソフト、ハードを利用して提供されるサービスを知らずしていいハードはつくれないのだから業務対象の広がりには必然的ではある。これまでにハードの計画や設計で積み上げられた技術や技能とICTなどの新しい技術を身につけ、カタチのないソフトやサービスの創出に活かそうとしている。このように経験を積み上げ、新しいものを生み出す建設コンサルタントにはまさに一つの文化があるということである。このたび本書を通じて、この地域の未来を、建設コンサルタントの未来を深い洞察のもとに構想された。次回の構想にはさらに文化の視点も織り込まれることと予想する。

❖ インフラトリアージ

インフラトリアージとは、インフラの老朽化に伴い、保全・更新の緊急性や老朽化の重症度から優先順位を決定する考え方のこと。

❖ 霞堤(かすみてい)

霞堤とは、堤防のある区間に開口部を設け、上流側の堤防と下流側の堤防が、二重になるようにした不連続な堤防のこと。

❖ カーブサイドマネジメント

道路の路肩や縁石部分(カーブサイド)を効率的に管理・活用するための戦略や手法のこと。

❖ カーボンニュートラル

カーボンニュートラルとは、活動やプロセスで排出される二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスを、吸収や削減により相殺(カーボンクレジットや森林吸収など)し、実質的な排出量をゼロにする概念や取り組みのこと。

❖ グリーン社会

グリーン社会とは、様々な環境対策を実践し、環境負荷の低減と経済成長の両立する社会。

❖ 景観と風景

景観とは客観的に見る「けしき」のことで、風景とは主観的に見る「けしき」のこと。本書では、主観を含まない客観的な景描写が多いため「景観」で用語を統一した(原風景や風景街道などの固有名詞はそのまま用いた)。

❖ 高規格幹線道路のミッシングリンク

高規格幹線道路の未整備区間。

❖ ゴールデンルート

ゴールデンルートとは外国人観光客が東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪などを巡る広域の観光周遊ルートのこと。

❖ コンパクト・プラス・ネットワーク

コンパクト・プラス・ネットワークとは、住宅や商業施設、医療・福祉施設などの生活サービス施設がまとまって立地し、住民が公共交通や徒歩などにより、これらの施設に容易にアクセスできるまちづくりのこと。

❖ サーキュラーエコノミー

循環経済(サーキュラーエコノミー)とは、従来の3Rの取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑止等を指すもの。

❖ 産業クラスター

「産業クラスター」とは、ぶどうの房のように企業、大学、研究機関、自治体などが、地理的に集積し、相互の連携・競争を通じて新たな付加価値(イノベーション)を創出する状態のこと。

❖ 自動運転

自動運転とは、ドライバー(人間)が行っている、認知、判断、運転操作(加速、操舵、制動など)といった運転行為を、ドライバーに代わりシステム(機械)が行うこと。

❖ シビックプライド

「地域への誇りと愛着」を表す言葉で、自分たちの住むまちをより良いものに、そして誇れるものにしていこうという思いのこと。

❖ スタートアップ

IT企業が集まるアメリカ・シリコンバレーで使われ始めた言葉で、革新的な新しいビジネスモデルを考え、新たな市場を提供することで、短期的に事業価値を高めて成長する企業や組織のこと。

❖ ゼロエミッション

廃棄物の再利用などを通して、廃棄物を限りなくゼロにしようとする取り組みのこと。

❖ ゼロカーボン

ゼロカーボンとは、温室効果ガス(特に二酸化炭素:CO₂)の排出を完全にゼロにすることを目指す取り組みや状態のこと。これは化石燃料の利用を極力排除し、再生可能エネルギーや省エネルギー技術の活用を最大化することによって達成される。

❖ 多核連携型の国土

多核連携型の国土とは、国土交通省が提唱する概念であり、コンパクト・プラス・ネットワークの推進等により、地域の核へ都市機能等が集約され、地域内・地域外がネットワークでつながり、テレワークや二地域居住など新しい働き方、住まい方を支える国土である。

❖ ターミナル駅

終着駅(終端駅)のことを一般に「ターミナル駅」という。わが国では、地下鉄を含め多くの鉄道路線が交錯し、バス、タクシーも発着する大規模な乗換駅を指すことが多く、「点」や「線」よりも陸上交通の集中する「面」的な機能を持った駅としてイメージされている。

❖ データセンター

インターネット用のサーバやデータ通信、固定・携帯・IP電話などの装置を設置・運用することに特化した建物の総称。

❖ デジタルサイネージ(電子看板)

駅や店舗、施設、オフィスなどに、ディスプレイやプロジェクターなどの映像表示装置を設置して情報を発信するシステムの総称。

❖ デジタルツイン

現実世界の物体や環境から収集したデータを使い、仮想空間上に全く同じ環境をあたかも双子のように再現するデジタル技術のこと。

❖ 二次交通

二次交通とは、目的地の移動に利用する交通のうち、乗り換え交通のこと。たとえば、新幹線で旅行に出かけ、下車した駅から利用するタクシーやバス、レンタカーなどが二次交通に該当する。

❖ 日本中央回廊

日本中央回廊とは、東京と大阪を結ぶ計画中の高速交通路で、日本の中央部を横断するルートのこと。

❖ ネイチャーポジティブ

生物多様性の損失を止め、自然を回復軌道に乗せること。

❖ ハブ空港

ハブ空港とは、航空ネットワークの中心として機能する空港で、多くの航空路線が集まり、乗り継ぎ拠点として利用される空港のこと。

❖ バレーパーキング

バレーパーキングとは、主にホテル、レストラン、ショッピングモール、イベント会場などで提供されるサービスで、顧客が自分で駐車する代わりに、施設のスタッフ(バレー係)が車両の駐車および返却を行う仕組みのこと。

❖ フリンジ駐車場

都心中心部への自動車流入を抑制するため、周辺部(フリンジ)の駐車場でマイカーを受け止め、都心循環BRTなどの公共交通に乗り換えて目的地まで行く取り組み。

❖ 港ツーリズム

港湾の構造物や景観、港湾周辺の観光資源などを観光の対象とするツーリズムのこと。

❖ メタバース

インターネット上に構築される仮想の三次元空間で、利用者はアバターとよばれる分身を操作して空間内を移動し他の参加者と交流すること。

❖ ラストワンマイル

ラストワンマイルは、物流や通信などの分野で使われる用語で、最終的な目的地までの「最後の1マイル」に関連する課題や取り組みのこと。この「1マイル」という表現は、主に都市部や集積地から最終消費者に商品やサービスを届ける最後の段階を意味する。

❖ リダンダンシー

「冗長性」、「余剰」を意味する英語であり、国土計画上では、自然災害等による障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質のこと。

❖ ワンコイン浸水センサ

縦4cm、横3cmほどの500円硬貨よりやや大きなセンサで、浸水が想定される地域の堤防や建物、道路などに取り付け、浸水状況をリアルタイムで把握する。

❖ AI(エーアイ)

AIとは、Artificial Intelligence(人工知能)の略。コンピュータがデータを分析し、推論(知識を基に、新しい結論を得ること)や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習(情報から将来使えそうな知識を見つけること)などを行う、人間の知的能力を模倣する技術を意味する。

❖ AR(オーグメンテッド・リアリティ)

拡張現実のこと。現実世界に仮想情報を重ね合わせ現実を拡張する技術のこと。

❖ Beyond8G(ビヨンドエイトジー)

次世代の情報通信インフラであり、将来あらゆる産業や社会活動の基盤となること。

❖ DX(デジタルトランスフォーメーション)

DXとは、デジタル技術を活用して、ビジネスや組織のプロセス、製品、サービス、ビジネスモデルを根本的に変革し、顧客価値や競争力を向上させる取り組みのこと。

❖ Eコマース

インターネット上で行われる物やサービスの電子商取引のこと。

❖ eVTOL(イーブイトール)

電動モーターで複数の回転翼を回転させ、垂直離着陸できる電動垂直離着陸機のこと。主に無人の小型ドローンとして物品の配送に用いられている他、人が乗り込める大型の有人eVTOL(電動ヘリコプター、空飛ぶクルマ、有人ドローン)の開発も進められている。

❖ GX(グリーントランスフォーメーション)

GXとは、気候変動問題に対応し、経済や社会全体を持続可能で脱炭素な形に転換することを目指す取り組みや概念のこと。

❖ ICT(アイシーティー)

ICTとは、「Information and Communication Technology」の略称で、コンピュータを単独で使うだけでなく、ネットワークを活用して情報や知識を共有することも含めた幅広い概念のこと。

❖ IoT(アイオーティー)

IoTとは、「Internet of Things」の略称で、あらゆるモノをインターネットに接続する技術のこと。

❖ MICE(マイス)

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

❖ MR(ミックスドリアリティ)

複合現実のこと。現実空間上に立体映像等の仮想情報を視覚化して仮想体験できる技術のこと。

❖ PLATEAU(プラトー)

PLATEAUとは、2020年12月に発足し、国土交通省が主導で推進する日本全国の都市を3Dモデル化するという都市デジタルツイン実現プロジェクト。PLATEAUは、地理空間データを活用するプラットフォームで、名称や用途、建設年などの情報を付与したオープンデータとして提供されており、誰もが都市データを自由に取得して活用できる。

❖ SX(サステナビリティトランスフォーメーション)

企業がサステナビリティ(持続可能性)を重視した経営に転換するという概念。

❖ VR(ヴァーチャルリアリティ)

仮想現実のこと。現実とは違う仮想空間で、まるで現実かのような体験ができる技術のこと。

❖ VUCA(ブーカ)

Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)という4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変化する予測困難な状況のこと。

❖ Well・Being(ウェルビーイング)

Well-beingとは、身体的、精神的、社会的、そして感情的な健康を含む、人間の総合的な幸福感や充実感を指す概念のこと。

おわりに（建設コンサルタントの取り組み）

「中部圏インフラ整備構想」は、2050年を見据え“『真の豊かさ』を実感できる国土づくりに向けて”をテーマに掲げ、3つのワーキングからなる推進委員会（メンバー31名）が中心となり、構想協議会（中部支部役員、専門委員会）における意見交換を踏まえ策定しました。さらに、策定に際し、東京大学大学院 小川光教授、名古屋大学大学院 戸田祐嗣教授、名古屋工業大学大学院 秀島栄三教授（50音順）よりご助言をいただきました。深く感謝いたします。

構想は策定する以上に実行することが重要です。本構想を実行する上で考慮すべき事項の一つは、本構想の位置づけとして、中部圏の未来に向けたインフラ整備の取り組みの一端を我々が担いたいと考えています。そのためには、建設コンサルタント協会と各企業が本構想の実現に向け、本構想を推進していくことが大切です。協会は、建設コンサルタントフェアや講演会等を通して、市民や学生など多くの人々に本構想を知ってもらうこと、国・自治体に対しては、意見交換会等を通して本構想への理解を得るとともに、優先度が高い「大規模自然災害への備え」や「持続可能で多彩な地域生活圏の形成」をはじめの段階として、意見交換を重ねながら取り組んでいくこと、各企業には、これら協会活動の支援とともに、Section2.3に示した「建設コンサルタントが貢献できること」を実践し、業務を通して本構想を提案していくことが求められています。

もう一つは、本構想は2050年を見据えて策定していますが、今後の経済・社会情勢の変化に対応し、適宜見直していく必要があります。そのためには、インフラ整備の企画、調査、計画、設計、各種マネジメント事業等に関する技術コンサルティングサービスを行う建設コンサルタントは、社会が抱える課題や変化とともに多様化する社会を的確に捉え、それらに対応するための専門性と技術力を高めていくことが求められています。

本構想のテーマに掲げた『真の豊かさ』とは、一人ひとりの価値観に基づくもので多様であり、それが何かを一律に示すことはできませんが、本構想を通して建設コンサルタントが考える『真の豊かさ』が何であるかを、少しでも感じ取っていただけたら幸いです。本構想が、中部圏の未来に向けたインフラ整備の取り組みの参考となり、この地域で暮らす人々が『真の豊かさ』を実感できる中部圏になることを願って結びの言葉といたします。

令和7年4月

中部圏インフラ整備構想 推進委員会

会長 後藤 隆

「中部圏インフラ整備構想」 推進委員会構成一覽

所属・分野	役職	会社名	氏名	備考	
	推進委員会 会長	前職 大日コンサルタント(株)	後藤 隆		
WG 1	WG1 担当役員	日本工営都市空間(株)	牧村 直樹		
	①交通インフラ分野	リーダー	大日コンサルタント(株)	井草 正人	
		サブリーダー	中日本建設コンサルタント(株)	草野 秀佳	
			(株)オリエンタルコンサルタンツ	立松 秀樹	
			(株)カギテック	斎藤 正明	
			(株)建設技術研究所	安達 弘展	
			セントラルコンサルタント(株)	藤田 健仁	
			パシフィックコンサルタンツ(株)	六反 雅登	
			八千代エンジニアリング(株)	中尾 拓也	～ 24.3.31
	②地域づくり・まちづくり分野	サブリーダー	中央コンサルタンツ(株)	石黒 茂樹	
			(株)長大	三島 理絵	
			日本工営都市空間(株)	森山 雅大	
			日本工営都市空間(株)	浅井 拓登	
			日本工営都市空間(株)	川口 直秀	23.7.31 ～
WG 2	WG2 担当役員	パシフィックコンサルタンツ(株)	中村 桂久		
	③流域治水分野	サブリーダー	(株)建設技術研究所	森田 卓光	～ 24.3.31
		サブリーダー	(株)建設技術研究所	海津 利幸	24.4.1 ～
			中日本建設コンサルタント(株)	長縄 清貴	
			(株)フジヤマ	清水 雅子	
	④インフラ維持管理分野	リーダー	中央コンサルタンツ(株)	鈴木 正樹	
			大日コンサルタント(株)	杉原 啓介	
			(株)長大	宮濱 晃一	
			日本工営都市空間(株)	藤江 勇太	
			八千代エンジニアリング(株)	大野 陽平	
WG 3	WG3 担当役員	大日本ダイヤコンサルタント(株)	高楊 裕幸		
	⑤土木デザイン分野	リーダー	(株)オリエンタルコンサルタンツ	杉山 達彦	
			大日本ダイヤコンサルタント(株)	稲永 哲	
	⑥その他	サブリーダー	大日本ダイヤコンサルタント(株)	近藤美沙希	
			(株)フジヤマ	鈴木 寛人	
構想協議会 役員 ・ 事務局	支部長	中日本建設コンサルタント(株)	上田 直和		
	技術部会 部会長	(株)オリエンタルコンサルタンツ	三矢 寿		
	〃 副部会長	中部復建(株)	筒井 重満		
	〃 副部会長	(株)建設技術研究所	江守 昌弘	～ 24.3.31	
	〃 副部会長	(株)建設技術研究所	関根 秀明	24.4.1 ～	
	事務局 総務部会長	中央コンサルタンツ(株)	岩月 隆佳		
	〃	建設コンサルタンツ協会中部支部	諸戸 裕巳	～ 24.6.30	
	〃	〃	寛 豊勝	24.7.1 ～	

中部圏 インフラ整備構想

発行日：2025年4月

発行元：一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中部支部

〒460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目4番12号

アレックスビル 3階

TEL.052-265-5738 FAX.052-265-5739

印刷・製本：水谷印刷株式会社



一般社団法人
建設コンサルタンツ協会
中部支部

〒460-0002
名古屋市中区丸の内一丁目4番12号
アレックスビル 3階
TEL.052-265-5738
FAX.052-265-5739



<https://www.ccainet.org/>